

溪畔林

安威川上流の竜仙峡付近には、自然植生のアラカシ群落広がっており、大阪府下では貴重な群落となっています。また、安威川の上流部から下音羽川溪谷にかけては、河岸に連続して溪畔林が発達し、豊かな生態系が形成されています。

オオサンショウウオやヤマセミなど、市内ではここにしか生息しない生きものがみられます。



アラカシ(ブナ目ブナ科)

- 識別難易度 ★★
- 観察難易度 ★★
- 観察適期 **春** **夏** **秋** **冬**
- 特徴

葉は長楕円形で先端側にギザギザがある。2cmほどの卵型のどんぐりを落とす。

■ 生育環境

アラカシが優占する自然林は、茨木市内でも安威川上流など限られた場所にしか分布していない。



オオサンショウウオ(有尾目サンショウウオ科) **国** **府**

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★★
- 観察適期 **春** **夏** **秋** **冬**
- 特徴

現存する世界最大の両生類。頭部は平たく大きいが目はとても小さい。一生を水中ですごす。

■ 生息環境

中上流域の水温や水質が安定した環境を必要とする。茨木市内では限られた場所にのみ生息する。

※特別天然記念物に指定されており、捕獲等は法律で禁止されています。



カジカガエル(無尾目アオガエル科)

- 識別難易度 ★★
- 観察難易度 ★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

4～8cmのカエル。体色は岩と似ていて保護色になっている。「フィーフィー」と美しい声で鳴く。

■ 生息環境

溪流の石の上や浅瀬で鳴いている。オタマジャクシは、川沿いの流れの緩やかな箇所などに生息するため、護岸が固められると生息できない。



ミヤマカワトンボ(トンボ目カワトンボ科)

- 識別難易度 ★★
- 観察難易度 ★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

体長6.5～8cm。はねは褐色で体は金属光沢があり、水辺をひらひらと飛び回る。

■ 生息環境

成虫は山地の溪流に生息し、幼虫は水中の朽木や植物などにつかまって生息する。



サワガニ(エビ目サワガニ科)

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

甲羅の幅は大きくても3cmほど。体色は赤、赤茶、薄い青などさまざまである。

■ 生息環境

きれいな溪流の石の裏などで見られる。砂利、小石の多い環境を好む。



河川

川にすむ生きものの中には、ニホンウナギやアユのように海と川を行き来する生きものがいます。

大正川や安威川は、河口から中流部にかけて、大きな堰（せき）などの流れをせき止める構造物がなく、海からの連続性が確保されているため、魚類相が非常に豊かになっています。



カワウ (カツオドリ目ウ科)

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

80cmほどの大きさ。全身ほぼ黒色で首が長い。繁殖期には、頭に白い繁殖羽が生える。

■ 生息環境

川や池で見られる。魚を食べるため、川の動物相が豊かであることを示す。群れで河畔の林などに巣を作り、繁殖する。



アユ (サケ目アユ科) 府

- 識別難易度 ★★
- 観察難易度 ★★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

背は青みを帯びたオリーブ色。腹は銀白色。触るとスイカのおいがする。

■ 生息環境

一生の中で海と川を回遊するため、大きな堰（せき）などのない海と川のつながりが保たれている川で見られる。産卵は、中下流域の泥の堆積がない砂利底の浅瀬で行う。浮き石や淵（ふち）のある変化に富む河床を好む。



テナガエビ(エビ目テナガエビ科)

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★★
- 観察適期 **春** **夏** **秋** **冬**
- 特徴



3~20cmほどの大きさ。その名の通り、手が長く、大きなハサミをもつ。

■ 生息環境

流れが緩やかで水草が生い茂ったところで見られる。卵からかえった子どもは海まで下り、その後川を遡上する。

つくろう！ 守ろう！ エコロジカルネットワーク

生きものの生息地間を緑地や河川で繋ぎ、ネットワーク化された状態をエコロジカル・ネットワーク（生態系ネットワーク）と言います。生息地から生息地へ自由に生きものが行き来できる連続性が確保されることで、生態系の保全と回復が図れます。

都市部では、河川や公園緑地が生きものの重要な移動経路となっています。また、庭にチョウや鳥が好む花や木を植えることもエコロジカル・ネットワークの形成に役立ちます。

孤立した緑地を公園や街路樹などでネットワーク化

